

郷土資料 あれこれ 67

【問合せ】
社会教育課郷土史編さん係
☎773-2197

今回は、サツマイモ(甘藷)、養蚕、魚沼巾着茄子などの農業に関する石碑を紹介します。

南魚沼市の石碑④⑥ 「甘藷蕃祖岡村長四郎君碑」

〔山崎〕



甘藷の栽培は、明治後半ころでも南魚沼地域ではあまりみられなかったようです。『大崎の村誌』には、小千谷市の小栗原田が甘藷の産地といわれており、浦佐の市で購入して彼岸に備えるほどの珍品であったとあります。
大崎村に初めて甘藷が栽培

のために持ち込まれたのは、明治39年(1906年)のことだそうです。

茗荷沢新田では、この地域で甘藷の栽培を広めた岡村長四郎の石碑が大正5年(1916年)に建立(石碑④)されています。このころには、他の地区でも徐々に栽培が始まっていったようです。石碑には残念ながら甘藷導入の経緯などは記されておらず、詳細は不明です。石碑は、現在、山崎に移設されています。

涯にわたり、地域の農業と町財政の振興に尽力しました。県農会議員、町農会長、在郷軍人分会長を務め、町の名誉

土地を提供し桑樹雪害試験場を開くなど養蚕振興にも尽力してしました。この功績から大正14年(1925年)に大日本農会から栄誉賞が贈られました。大正15年(1926年)に建立された記念碑の裏にはこの賞状が刻まれ、功績を今に伝えていきます(石碑⑥)。

南魚沼市の石碑④⑦

「篤農家戸田郁之丞君碑」

〔美佐島諏訪神社・十二神社合殿境内〕



南魚沼地域の養蚕は、明治時代から大正時代に盛況となり、養蚕業の発展に尽力した人が現れ、その功績を称えた石碑が建立されています。
美佐島の戸田郁之丞は、生

南魚沼市の石碑④⑧

「蚕糸業先覚者小林正吉翁碑」

〔雲洞庵境内〕



雲洞の小林正吉は、県会議員を務めたほか、地域産業の発展に尽力しました。桑園の開発や養蚕を発展させるため先進地への視察、桑苗の優良品種の導入などに努めました。
正吉の養蚕の功労を語り継

ぐため、蚕糸業有志によって顕彰碑が建立されました(石碑⑧)。

南魚沼市の石碑④⑨

「老農栗田忠七翁之碑」

〔下原諏訪神社山門前〕



下原の栗田忠七は、明治30年(1897年)に上州方面へ出稼ぎに出向きました。この時に土産として持参した茄子の種が出稼ぎ先の群馬県富士見村の船津家の当主(当時、農林省農林試験場技師)の目にかない、品種改良を重ねた結果、巾着のように丸形の「魚沼巾着茄子」が誕生しました。

書が新潟県農事試験場から出されました。証明書には、魚沼巾着茄子は、円形で頗る大きく、外皮は濃紫色で薄く、肉厚で煮物や漬物に適し、樹勢は強剛、立枯病などの病気にも強く、豊産であると記されています。専用の採種圃があること、苗床、圃場でも数回の検査が行われ、純正種を保護していることが評価されたようです。大正7年(1918年)に発表され、代表的な丸茄子として県外にも出荷されていたそうです。

明治45年(1912年)に城内村茄子牛蒡採種組合が設立され、改良普及が進められました。大正2年(1913年)、この組合が生産した魚沼巾着茄子の種子には、「純正である」ことを認めた証明

忠七は、このほかにも稲作の研究を重ね稲品種「忠七」の育成、小学校の農業指導官や農会の顧問を務め、いくつもの表彰を受けるなど南魚沼の農業に大きく貢献しました。忠七の功績を顕彰するために養蚕業の有志によって石碑が建立されました(石碑⑨)。

《参考資料》

- 『大崎の村誌』
- 『六日町誌』
- 『南魚沼郡誌』 続編下巻